

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2472800412
法人名	伊勢市
事業所名	おばたグループホーム
所在地 (電話番号)	伊勢市小俣町宮前31-2 (電話) 0596-20-8530
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 20 年 9 月 30 日(火)

【情報提供票より】 (H20年9月11日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 14 年 3 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8人, 非常勤 0人, 常勤換算 8人	

(2)建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	13,000 円
敷金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200円		

(4)利用者の概要(9 月 11 日現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名
要介護3	2 名	要介護4	1 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 88 歳	最低 77 歳	最高 98 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	市立伊勢総合病院
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業主体が伊勢市であり、隣接の特養との委託となっている。従って、施設長は兼務であり経理についても特養の事務員が実施している。職員は常勤の専任で8名体制で別途伊勢市から事務員が派遣され、充実した運営体制となっている。建物は平屋建て1ユニットで、駐車場含む敷地は余裕があり住宅地の一角にあるが、宮川堤防に面した静かな環境が保たれている。内部は高い天井と明るい食堂兼居間で、20代から60代の幅広い職員が明るい表情で支援している様子が見える。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>防災訓練は隣接の特養と合同防災訓練が定期的実施され、救急法やAED取り扱い訓練も実施されている。医療の支援体制は市立伊勢総合病院と契約し、必要な利用者には紹介する体制となっている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全体の項目について先ず管理者が記入し、項目内容により職員に聞いて仕上げている。又、再度意思統一の必要を感じた項目については日々のミーティングに反映し改善に取り組んでいる。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月毎に実施され、事業内容の説明と利用者や家族の意見を聴く場として活用されている。今後は、自治会や包括支援センターの参加を促し、幅広い意見交換の場として日々の支援に活用される事を期待する。</p>
重点項目 ②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族には毎月「上天気、パリパリ通信」が発行され、利用者の状況や行事案内が広報されている。又、家族の来所時や家族を含む食事会には意見や苦情の相談を聴いて、日々の支援に反映している。</p>
重点項目 ③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会には入っていないが、地域のゴミ掃除等に参加して近所の方々との交流を図っており、隣接の特養との合同イベントに参加して、地域の人との連携に務めている。又、民生員からの食事会の招待を受け交流している。</p>
重点項目 ④	

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「あたり前の普通の生活」を基本に平成18年に改訂され、地域に溶け込み交流が図られる独自の理念がつけられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は事務所及び事業所の入り口に掲示され職員と共に共有化されている。理念に基づく実践では「見守るのも支援」を職員の共通認識として日々取り組み、日々のミーティングで気付きを話し合い支援に反映している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には入っていないが、地区のゴミ掃除等に参加したりして近所の方々との交流をしている。又、隣接の特養との合同イベントに参加して地域の人と接する機会を設けている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価の意義は職員にも理解されており、職員の意識合わせが出来ている。評価項目で確認された内容で改善必要内容については日々実施されているミーティングの中で話し合われ、具体的な改善がおこなわれている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施され、参加者は市の福祉健康課、民生委員、利用者及び家族で主に事業内容の報告と家族からの意見を聴く場として活用されている。自治会、地域包括支援センターの参加は確認出来なかった。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業主体が伊勢市であり、事務長及び事務員が伊勢市から派遣され連携がその都度出来る体制となっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月広報誌「上天気のパリパリ通信」が発行され家族に送られている。家族を含む食事が年3～4回開催され、その時や家族の来所時に個々に合わせた報告をしている。金銭管理の依頼のある7名については、管理台帳があり、来所時に確認のサインをうけている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	食事会や家族の来所時に意見や苦情があれば聴いており、意見箱を事業所内に設置している。重要事項説明書等に外部へ表せる市や社会福祉協議会、国保連合会等の窓口の表示は確認出来なかった。	○	事業所の苦情窓口だけでなく、外部へ表せる機会としての窓口の明示が望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	隣接の特養との異動も有るが、行事等の交流もあり全然顔見知りの無い人との異動は無い。尚、職員の異動は最小限に抑える努力がされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	隣接の特養との合同研修が実施されており、介護福祉士は現在3名で本年も新規の挑戦者がいる。受験該当者には資料の提供など積極的な支援がされている。尚、AEDの取り扱いや救急法の研修も別途実施されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内のグループホーム連絡協議会での交流があり、同業者の見学を受け入れ相互の交流に務めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	基本的には申し込み後、事業所が訪問して家族を含めて相談のうえ家族と利用者が来所し、場合により1日体験を実施したりして徐々に馴染める様になっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	色々な体験談から、畑仕事や漬物の漬け方などを教わったりして、共に学ぶ姿勢で過ごしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	当初のフェースシートやその後の経過を把握し、その後の経過を個別ケア記録に記入し、日々のミーティングで利用者毎の希望や意向に基づき支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	生活歴調査書及び基本情報(心身の情報)に基づき利用者毎の担当職員が先ず記入し、介護計画作成担当者が作成している。作成された計画書は家族に確認して頂きサインを受けている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画に基づく課題はミーティング等で話し合い振り返りが実施され見直し計画書が作成されているが、見直しの期間は約10ヶ月となっている。	○	日々のミーティングや月1回の担当者会議で利用者毎の課題等について話し合われているが、3ヶ月位を目途に定期的な見直しが望まれる。特に変更の無い場合は継続と明記して見直しの実績を明確にしておかれる事が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医院への送迎や、墓参り等の要望に応じている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族が希望するかかりつけ医で往診も含め診察を受けている。事業所として協力医の伊勢総合病院を紹介し、定期健診等の支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族との協議により、かかりつけ医が往診出来る利用者については「終末期まで」という話し合いが出来ており、職員とも方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	部屋への出入りには必ず声かけをする等、介護の心得17ヶ条が職員間で共有されている。記録等の個人情報は事務所できちんと管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一応のスケジュールは決めているが、一人ひとりに寄り添う気持ちで支援している。急に散歩の要望がある時等も誰かが一緒に行ったりしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のサポートを必要とする人はいないが、一緒に食事する事の意味を職員は理解し、話題を拡げながら楽しく食事している。準備や片付けについても出来る人には、してもらっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には2日に1度の割合で入浴をしてもらっているが、希望があれば毎日になる事もある。お湯は循環式となっており広い浴槽でゆったりとした雰囲気となっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑の水やりや近くの顔見知りの肉屋への買い物等、出来る人には気晴らしを兼ねてもらっている。屋内ではぬり絵やきり絵などで楽しみの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩は、ほぼ毎日近くの川原等に行き、気分転換の為に車でも近くの公園へ行ったりして季節感を感じる支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員も鍵をかける事の弊害が理解されており、居室及び玄関は日中は施錠していない。過去に於いて徘徊の実績はないが玄関から出る時は時々有るが、居間からはガラス越しでよく見えるので職員が注視している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	隣接の特養が市の指定避難所となっているので、職員間でも安心感がある。尚、年一回の日中防災訓練は実施されているが、夜間を想定した訓練の実績はない。防災監視盤による119番、特養、管理者宅への連絡体制があり、職員には災害時の手順は明確になっている。	○	運営推進会議での自治会への協力依頼等しながら、職員の不安を少なくする為にも夜間の防災訓練の実施が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスについては、調理担当者が目安で管理しているが隣接の特養の栄養士に相談し、一人ひとりの状態や習慣に応じ支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下、居間兼食堂は高い天井と大きなガラス戸により明るい空間となっている。廊下や居間には一時休憩出来る畳の場所が設けられ利用者同士や職員との話し合いがされている。居間には利用者個人の顔がちぎり絵で掲示され、イベント関係の写真と共に家族来訪時に見てもらい話題の一つとなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはトイレと洗面が設置され個人が直ぐ対応出来る様になっている。ベッドと衣類入れは常設されおり、個人の使い慣れたものは個人が好みに応じ持ち込まれ、居心地良く過ごせる様になっている。		